

<点検結果報告書関連> 第 41 回施策調査専門委員会後意見等とりまとめ結果

1 点検結果報告書（第 2 期・平成 28 年度）実績版

	ページ	意見・修正内容等	対応
①	P0-1	点検結果報告書の冒頭で、施策の目的や施策大綱、実行 5 か年計画など施策のあらましについてふれておく必要がある。それがないと、何のためにこの施策をやっているのか、どういう視点で評価していくのかがはっきりしない。	P0-1 に「1 水源環境保全・再生施策のあらまし」を記載
②	P0-2	「1 次的アウトカム」や「2 次的アウトカム」などの用語の説明が必要。	P0-2 に説明を記載
③	P0-8	5～9 番事業は市町村への補助事業となるが、補助事業となっている経緯や県と市町村の役割分担など、県事業と市町村事業の考え方について解説が必要。 (コラム的なものでも可)	P0-8 に説明を記載
④	P0-8	付表に詳しい情報がある旨の記載がない。すべて記載するわけにはいかないが、重要なところは、『詳細情報については付表を参照ください。』という一文を入れては。	P0-8 に説明を記載
⑤	P0-11	「全体の総括」の内容はこれでよいと思うが、森林の 2 次的アウトカムの記載に関して、語句の掛かり具合が若干おかしい箇所があるので、修正が必要。	該当箇所の前に「水循環モデルにより、下層植生状態のシナリオ別に 1 年間の雨量に応じた河川の流量（流況）を解析したところ、」を追記
⑥	P1-9 P3-6	(1 番、3 番事業総括の中で) 溪畔林事業の成果を私有林に広げていくとあるが、国有林、県有林はどうするのか。もちろん国有林は関係ないと思うが、一般県民にはその辺りは分からないのだから、もっと丁寧に書くべき。	①「私有林の（整備）」を「今後の森林（整備）」に修正 ②「溪畔林整備技術については私有林での整備に活用していく」を「溪流沿いの森林では確立した溪畔林整備技術を活用していく」に修正

⑦	P6-4	<p>P6-7 の総括に「5年間の累計で 13 箇所・・・」と記載があるが、13 がどこからくるのか分からない。</p> <p>P6-4 の 5 か年計画に対する進捗の表では 9 箇所だと思うが、どこか重複して数えているのか。</p>	<p>《考え方》</p> <p>累計（13 箇所）は 5 年間で実施した新規工事箇所数の合計となります。</p> <hr/> <p>P6-4 の説明文を「5 か年計画の目標は新規工事箇所数（7 箇所）のため、5 か年の累計は各年度の新規実績を計上」に修正</p>
⑧	P6-5	<p>【P6-5、P6-6 の表】</p> <p>第 1 期に工事を完了し、この 5 年間は効果検証だけの箇所も多いが、工事箇所の総数や、表は過去（第 1 期）の実績を含むものだという明示が必要ではないか。</p>	<p>P6-5 のリード文に「なお、(1) (2) については、第 1 期に工事が完了した事業箇所も含む。」を追記</p>
⑨	P6-6	<p>(P6-5) 道保川のように 24 年度に新規工事後、工事（継続）が続いている箇所はどのようなところなのか。なぜ、継続しているのか、毎年工事をしているのか、説明が必要ではないか。</p>	<p>《考え方》</p> <p>全体の整備延長が長い箇所や、(田植え等の影響により)年度内に着工できる期間が短い箇所では、計画上の工期が複数年にまたがり、「継続」となります。</p> <hr/> <p>P6-6 の説明文を「工事計画の初年度を新規、2 年目以降を継続とする。」に修正</p>
⑩	P6-8 ～6-10	<p>【P6-8 のモニタリング調査結果】</p> <p>1) 工事の水質調査は 34 箇所とあるが、34 の数字の説明が必要ではないか。(6-9 の表を数えると、生態系に配慮した河川水路等の整備が 22 箇所、直接浄化対策が 12 箇所。</p> <p>生態系に配慮した河川水路等の整備では、総数 31 箇所中 28 年度新規工事の箇所を除くと 22 箇所になると思うがこの理解で正しいか)</p>	<p>《考え方》</p> <p>モニタリング調査結果については、工事後に『効果検証』を実施した箇所の測定（評価）結果を記載しています。(P6-5、6-6 参照)</p> <hr/> <p>①P6-8 の説明文に「(工事後の水質調査は、) 次の (34 箇所) で実施した。」を追記</p> <p>②P6-10 の説明文に「(工事後の評価は、) 次の (34 箇所) で実施した。」を追記</p> <p>③P6-9、6-10 の表の左列に「No. 1～22、1～12」を追記</p>

⑪	P6-10	<p>(P6-10) 工事箇所の評価点については、満点が何点かを示す必要がある。</p> <p>また、評価シートの掲載されているHPのアドレスを追記すべき。</p>	<p>P6-10 のリード文に「なお、評価については、平成 26 年度より「河川水路整備事業評価シート」を使用し、①水質・動植物調査、②整備手法、③水環境の維持について、それぞれ評価している。(満点：100 点(①20 点、②60 点、③20 点)) (河川水路整備事業評価シートについては、県水源環境保全課ホームページに掲載 (URL))」を追記</p>
⑫	P11-13	<p><アユ調査関連></p> <p>①遡上量だけを見ると、3 年間でどちらかと言うと改善、増えているように見えるが、河川の環境が改善したからとは言いきれないと思うので、そのあたりは誤解されないような記載が必要。</p> <p>②3 年分の評価結果について、全体的にネガティブな印象がしたので、少なくとも現状維持という言葉は入れてもおいても良い。(報告書の 11-13 ページの網掛け部分) これを見る限り、漁場としての評価は低めであることが書かれていて、その通りかと思うが、3 年間の結果を見ると遡上数としては、ずっと動かぬ傾向があって、悪化しているという部分はないので、少なくとも河川関係の現状維持はされているというコメントがあってもよい。</p>	<p>①3 年間の推移については、今回の点検結果報告書に出こないため、意見として受領</p> <p>②遡上量の調査結果から河川環境は維持している旨を記載。河床状況調査のコメントについても一部修正</p>

2 点検結果報告書（第2期・平成28年度）概要版

	ページ	意見・修正内容等	対応
①	P2	事業進捗状況の表と補足説明の番号が合っていない。	事業進捗状況の表記に合わせて修正
②	P3	「モニタリングによる検証」と「事業モニターによる点検」の違いが不明瞭。（特に「事業モニター」の言葉は突然感があるため、説明が必要。） 例えば、「県民参加による事業モニターによる点検」にするとか、P2の事業進捗状況の表内の⑫県民参加による仕組みの「(1)県民会議の運営など」を「(1)県民会議（県民フォーラム・事業モニターなど）」にするなど、説明を加えるとよい。	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングによる検証 ⇒モニタリング調査による検証 ・事業モニターによる点検 ⇒県民会議による事業モニター ・県民会議による点検結果 ⇒特別対策事業の点検・評価結果に修正。

3 点検結果報告書（第3期版）構成見直し

	意見・修正内容等	対応
①	見直しの考え方（案）で、高次の評価は毎年度の点検評価では行わないとしているが、それでよいか、今後議論が必要。	当議題については、次回委員会において引き続き議論するのでその中で確認を行う。
②	水源のかん養機能などの参考情報などについても、一通りホームページで紹介をしておいたほうがよい。	自然環境保全センターのHPに説明有り（別途作成するかは要検討）

4 その他（6番事業関連）

	意見内容	回答
①	<p>6番事業の評価について、①水質、動植物調査、②整備手法、③水環境の維持についての総計で評価するのは問題がある。</p> <p>②の配点が大きすぎるため、①や③の結果が②の値で隠されてしまう危険があるのでは。せっかく生物や整備手法などが追加された評価項目なので、明確にするためにも、①②③それぞれで、工事前後の評価を行ったらどうか。</p>	<p>現在、①②③それぞれの工事前後の点数を記載しておりますが、表記の方法については改めて検討させていただきたいと思います。</p>
②	<p>評価シートの配点を見ると、例えば②の整備手法で「瀬と淵があった場合」には多くの評価項目にまたがっており、全部で12点もの大きな点数が加点される。配点の偏りに検討の余地を感じる。</p>	<p>配点に関しては検討の余地があり、先生方のご助言をいただきつつ見直しを行いたいと考えております。</p>
③	<p>評価項目に地域住民の意見が反映されているかどうかの評価が必要。地域住民による評価、地域住民が満足しているかどうかがあるとよい。地域住民が満足している事業は、効果評価の説得力が非常に高くなる。</p> <p>地域住民の意見を事業に正確に反映させることは、最初の情報収集だけでは難しく、どう取り組むかも新しい知見になるだろう。</p> <p>今後の事業で、意見を反映させるため取り組みを始めてはいかがか。</p>	<p>今後は市町村を通じて、地域住民に対してアンケート等を実施することを検討しています。</p>
④	<p>現在は、まず地域住民から意見を収集し、それを事業計画に取り入れ、工事設計をし、工事をするという流れなのか。</p> <p>事業計画・設計・工事実施とイベントの都度、地域住民にフィードバックして確認しつつということはされているか？行政と市民との協働で事業をすすめるケースをよく聞くが、この事業では地域住民と協働という形になっているか？</p>	<p>地域住民から意見を収集し、計画に取り入れることについては、多くの整備箇所を実施しています。ただし、その都度フィードバックするという形はとっておりません。</p>

⑤	<p>見学した善明川・恩曾川・川村用水路について、事業工事が地域の中で受け入れられているのか分からなかった。礫間浄化や地下への浸透、生物の隠れ家など、さまざまな工夫が見られるが、これらも利用者があってこそ技術である。もし地域に受け入れられていないのであれば、非常にもったいない。事業モニター実施時には、地域に受け入れられた事業かどうか評価に大きく影響する。</p>	<p>市町村の職員が口頭で地域住民に評価を聞いた限りでは、概ね高評価とのことです。</p> <p>今後は③のとおり、市町村を通じて、地域住民に対してアンケート等を実施することを検討しています。</p>
⑥	<p>小田原市の桑原排水路はメダカを中心とした市民活動とうまく協働された事例なのか。機会があれば一度、見学したい。</p>	<p>第1期の初期に整備した箇所のため、情報を確認して検討いたします。</p>
⑦	<p>浅枝先生監修の「生態系に配慮した河川・水路等の整備指針」について、指針として今後もっと充実させていくべきである。</p> <p>ただ、河川と水路（用水）とは章や節などを分けた方がよさそうに感じた。土砂動態のある河川と水の流れが主の用水では、大きな指針は同じでも、実際の細かな部分は異なるのでは。</p>	<p>浅枝先生にご監修いただいた際の検討内容を確認し、今後ご助言もいただきながら内容の充実を図りたいと考えております。</p>